

元気なまちづくり
募集
じげもんトーク参加者募集!

市長が市民の皆さんと直接意見交換する「元気なまちづくりじげもんトーク」。今回のテーマは「スポーツに親しめるまちづくり」です。スポーツに関心のある皆さん、どうぞご応募ください!

とき 2月22日(火)12時~13時30分
ところ 市役所5階・副市長応接室
対象 市内在住者6人程度
内容 昼食を取りながら市長と意見交換

応募方法 応募用紙に必要事項を記入し、
①郵送 〒857-8585(住所不要)
②ファクス 25-2184
③Eメール hishok@city.sasebo.lg.jp
のいずれかで秘書課へ
※応募用紙は市ホームページからダウンロードできます。郵送、ファクスでも送付します。

締め切り 2月14日(月)必着



「食育」をテーマとした
前回のじげもんトーク

秘書課 ☎24-1111

させぼ
市政だより
【テレビ】土曜約5分間
NBC 9時25分、NIB 9時25分
KTN 11時40分、NCC 11時40分
【ラジオ】
NBC 日曜 9時25分
FM長崎 火曜 9時5分
FMさせぼ
火曜10時30分・日曜 9時30分
【新聞】長崎新聞 毎月第2・4火曜
【ホームページ】
http://www.city.sasebo.nagasaki.jp/

人の動き
1月1日現在
●総人口 260,984人(-10人)
男性 122,308人(増減なし)
女性 138,676人(-10人)
(12月中の動き)
転入505人、転出486人
出生232人、死亡261人
●世帯数 106,360世帯(+6世帯)

特集	03	「坂の上の雲」の時代 明治の記憶
市政通信	10	12月定例会市議会での可決事項 小佐々地域が大型工業団地の候補地に決定! 4月から水道料金等の納付が選択制に 市県民税・国保税の申告は3月15日まで
イベント	12	相浦愛宕市、春の植木市、火の用心チャリティーバザー、肥前えむかえ繭玉まつり、早春の針尾瀬戸「もうマテない!魚貝まつり」
	13	心の健康づくりフェスティバル、豊かなこころづくりフォーラム、2011スピカまつり、佐世保・ハウステンボス龍馬伝館、アルカスSASEBO情報
施設だより	14	亜熱帯動植物園、少年科学館、市立図書館、西海パールシーリゾート
市民の広場	16	質問「引っ越しのときのごみはどうやって出すの?」 広報クイズ プレゼント「図書カード」 広報テレビ「防災行政無線を設置します」 プレゼント「江迎地域の特産品・黒大豆」 インターネット求人情報検索サービス シリーズ佐世保の物産⑦「江上文旦」
暮らしと情報	18	お知らせ
	20	募集
	21	講習会・講演会など
健康と福祉	22	子育て
	23	障がい福祉、高齢者と介護、健康づくり
	24	生活衛生、相談など
	25	検診・検査など
市長日記	26	一人一人が輝きを
〇〇の話	26	医療保険課から「特定健康診査」の話
レシピ	27	元気な朝ごはんレシピ「ごはん de お好み焼き」
歴史散歩	27	龍の飾り瓦・白岳町
裏表紙	28	九十九島かき食うカキ祭り・冬の陣



表紙の話
「日米親善ふれあいバスケットボール」では、バスケットボール女子日本リーグ機構(WJBL)に所属する5人の講師たちによるバスケットボール教室が開催。子どもたちはバスやドリブルなどの指導を受け、基礎から応用まで楽しく学びました。またエキシビジョンゲームでは、基地内の女子高校生選抜チームが講師たちと対戦。華麗なプレーを披露する講師陣と熱戦を繰り広げました。

明治の記憶

特集 「坂の上の雲」の時代

小説家・司馬遼太郎の代表作とも言える「坂の上の雲」。江戸時代という二六〇年以上続いた泰平の眠りから覚め、欧米的な近代国家を目指した明治時代の日本の様子が細密に描かれています。

昨年12月に放送されたNHKスペシャルドラマ「坂の上の雲」(第2部)では、東郷平八郎司令長官率いる連合艦隊が、大ロシアと戦うべく、旅順(りょじゆん)現在の中国大連市の一部に向けて佐世保港を出港するシーンなど、当時の佐世保の様子もたびたび登場しました。

鎮守府設置以降、急速に発展し、まさしく激動の時を迎えていた明治時代の佐世保。今回の特集では、村から市となり、近代化を遂げる佐世保の様子や、そのときの歴史を今に伝える近代化遺産などを紹介します。



東郷平八郎 1847-1934年

海軍大将・元帥。日露戦争では連合艦隊司令長官に就任し、日本海海戦でバルチック艦隊を全滅させました。明治16(1883)年8月、軍艦「第二丁卯」の艦長として佐世保を訪れ、また32年1月には、第7代佐世保鎮守府司令長官に就任するなど、佐世保と深い縁があります。写真は東公園(東山海軍墓地)にある東郷平八郎像。

佐世保の運命を変えた勅令

明治初期、日本では、海外列強による侵略を防ぎ、独立を保つため、海軍力の整備充実が緊急課題になっていました。政府はイギリスなど先進国を手本にした海軍づくりに着手。軍港として理想的な立地条件を備えた港湾の調査・測量を日本中で行いました。明治16(1883)年8月、この調査のため東郷平八郎少佐を艦長とする軍艦「第二丁卯」が佐世保湾に姿を現しました。今までに見たこともない巨大な船体に村人たちは大変驚いたといわれています。以降約2年半をかけて、大村湾(佐世保湾)、伊万里湾、平戸の古江湾などが綿密に調査されました。

19年5月、佐世保の運命を劇的に変える勅令(天皇の命令)が出され、佐世保に軍港と鎮守府を設置することが決まりました。天然の良港であること、九州西南方の海上を警備する上で最適な位置にあることなどが決め手となりました。この決定以降、人口約四千人の一寒村だった佐世保は、周辺の村々を巻き込んで急激な変貌を遂げていきます。

「連合艦隊の拠点づくり」と「佐世保のまちの萌芽」

金比良山の切り崩し

軍港設置の決定後、現在の海上自衛隊佐世保地方総監部の場所にあった金比良山や水田、湿地など数百畝が、軍港建設のため国に買収されました。明治20(1887)年1月、本格的な工事が始まると、金比良山の切り崩しや水田等をかさ上げする工事が突貫作業で進められました。山の切り崩しには火薬が使われましたが、今のような機械もなく、危険な作業も多かったため、死傷者も多く、死者は80人以上に上りました。

市街地の建設

軍港建設では、数千人ともいわれる工事の関係者等が一気に佐世保に押し寄せ、放っておけば、あちこちに勝手に家を建てられてしまう恐れがありました。そこで海軍省と県は、軍港設置内定のころから佐世保の都市建設計画を立て、19年9月、「佐世保家屋建築規則」を定めて無秩序な家屋等の建築を厳しく制限しました。都市計画は、水田や湿地だった市中心部に石垣を1〜3メートルの高さに築き、土砂を入れて道を作ることから実施されました。このとき最初に造られた道が現在のアーケード通り(旧本通り)で、その後、長く佐世保の幹線道路となりました。

は急を要しましたが、日清戦争には間に合わず、戦争中は浮きドックを借用して急場をしのぎました。

結局、日清戦争後の28年に完成しましたが、使用したコンクリートが海水に対する耐性が無かったため水漏れが起り、その後も正常に使用できる状態になるまで数回の改修を余儀なくされました。



旧佐世保海軍工廠第一船渠(現佐世保重工業株式会社佐世保造船所第5ドック)
本市の水道をはじめ西日本各地で水道建設に携わり、「水道の父」と称された吉村長策氏の遺品の中に含まれていた写真。吉村氏は佐世保鎮守府経理部建築科長というポストに就いており、改修用の資料としてこの写真を入手したと考えられます。写真右上には明治23年に完成した50トンのクレーンが、ドック後方海上には帆走練習艦「満珠」やドイツから輸入した22号型水雷艇らしい艦影が写っています。

当時、松浦家や山縣家の所有だった水田も埋め立てが進み、約10年後には現在の市街地の基本的な形が整いました。松浦町、山県町という町名はそのときの経緯を物語っています。また、浜田、湊、島瀬、島地、塩浜などの地名からは、元々その地域が海岸や干拓地であったことがうかがえます。

鎮守府開庁

22年3月、赤松則良中将が初代佐世保鎮守府長官に任命され、7月に鎮守府が開庁。横須賀などから数百名の海兵団が送り込まれ、12月には鎮守府庁舎が完成しました。

23年4月には、明治天皇を迎えて開庁式が行われました。盛大な儀式に参列する人に加え、長崎や近郊から見物人が押し寄せ、村は人であふれ返り、宿もなく野宿する人も多かったといわれています。

物資倉庫と初の水道施設

鎮守府の第一期工事では、佐世保を軍港として使用するための最低限の施設が建設されましたが、特に重要だった施設が、軍需物資を保管する倉庫と水道施設でした。

倉庫については、現在の平瀬地区に2

日清戦争

日清戦争の直接の原因は、朝鮮半島を巡っての日本と清国の対立でした。明治27(1894)8月1日、両国は宣戦布告に至りましたが、佐世保に集結していた連合艦隊の出港や、海兵団の出陣式が歡呼の中で行われたのは7月下旬で、戦争の準備はそれ以前から始まっていました。

棟、立神地区に4棟が21年11月までに建設されました。立神地区には兵器類を保管する「武庫」に属する弾薬包庫2棟、弾庫、小銃庫が建てられました。このうち3棟が現存しており、弾薬包庫は立神音楽室として今も利用されています。

水道施設については、ダムなどを作る余裕が無かったため、弓張岳中腹の郭公藪の炭鉱跡からの湧水を水源とし、矢岳に新設した貯水施設へ導水しました。これが矢岳貯水所であり、22年12月に完成しました。矢岳貯水所は、煉瓦と石材で造られた貯水槽2基を備え、郭公藪水源から導水した湧水を貯水し、鎮守府構内に給水していました。非常に小規模な水道施設でしたが、給水開始は23年6月といわれており、横浜市水道(20年完成・日本初)、函館市水道(22年完成)に次ぐものであったことは注目に値します。

第一船渠の完成

鎮守府開庁後も佐世保における工事は次々と行われました。特に軍艦の修理を行うための工場や起重機(クレーン)の建造が矢継ぎ早に着手され、26年には佐世保で初めての船渠(ドック)の建設が着手されました。折しも日本と清国(現在の中国)の関係が悪化していたため、工

日本は陸・海軍ともに勝利し、28年4月には日清講和条約(下関条約)が結ばれました。この間、佐世保は連合艦隊の拠点として、弾薬、石炭、糧食などの軍需物資を供給し、重要な役割を果たしました。人々は勝利を喜び、各村々で祝勝会が行われ、戦費の寄付、慰問品の寄贈などが相次ぎ、まちは人でにぎわいました。

「勇敢なる水兵」三浦虎次郎



日本海軍が「定遠」、「鎮遠」と対決したのは27年9月17日、「黄海海戦」のときでした。このとき日本海軍は速力に優る巡洋艦と発射速度の速い速射砲を組み合わせ、沈めるのではなく、多数の命中弾を与えることによって戦闘力を奪ってしまうという作戦を採りました。この作戦は見事の中し、激戦の末、清国艦隊を撃退することに成功。しかし「定遠」、「鎮遠」に備えられていた30.5センチ主砲は強力で、海戦中に主砲弾を受けた巡洋艦「松島」はたった1発で60人の死傷者を出しました。この砲弾で瀕死の重傷を負った三浦虎次郎三等水兵は上官に「まだ沈みませんか、定遠は」と尋ねた後、戦闘不能に陥ったことを聞き、ほほ笑みながら息絶えたとされています。このときのエピソードが国民の間で感動を呼び、軍歌「勇敢なる水兵」が作られることになりました。この三浦虎次郎の墓も東公園に建てられています。

清国巨大軍艦「定遠」「鎮遠」



東山町にある東山海軍墓地は、佐世保鎮守府に所属していた軍人のための墓地として、明治24年に造られました(昭和34年から東公園として市が管理)。墓地は、甲、乙、丙、丁、戊の5区に分けられ、個人墓をはじめ、空母や潜水艦をかたどった慰霊碑などが建立されています。この墓地の参道から個人墓の区画への入口には、一対の巨大な砲弾が門柱として建てられています。日清戦争当時、日本海軍が最も恐れた清国軍艦「定遠」の主砲弾です。日清戦争当時、衰えが見えていたとはいえ、清国は日本の数倍の国力を有し、諸外国も清国が圧倒的に有利と考えていました。その清国の力を象徴する軍艦だったのが「定遠」と「鎮遠」の2艦で、30.5センチ主砲4門、15センチ砲2門、最大厚355ミリの装甲板を備え、排水量は7355トに達するという当時の日本にとって信じられないような巨大な軍艦でした。

旧鎮守府武庫弾薬包庫(現立神音楽室・立神町、写真右)

佐世保鎮守府第一期工事の際に建設された2棟の弾薬包庫のうちの1棟。従来、大正年間の建築と伝えられていましたが、近年、防衛省防衛研究所で新たな資料が発見され、明治21(1888)年11月の建設であったことが確認されました。現在確認されている市内最古の煉瓦建築物です。

矢岳貯水所跡(矢岳町、写真左)

水道施設としては郭公藪水源と並んで市内最古のもの。従来郭公藪水源の水をそのまま貯留し、未ろ過で配水していたといわれていましたが、昨年、防衛省防衛研究所で新たな資料が発見され、ろ過池の存在が確認されました。



臥薪嘗胆、さらなる施設の充実

三国干渉、臥薪嘗胆

明治28(1895)年4月、日本は日清講和条約(下関条約)で遼東半島を清国から譲り受けましたが、極東進出をもちろむロシアは「日本の遼東半島領有は、極東の平和の妨げになる」との理由で、ドイツ、フランスとともに三国干渉を行い、遼東半島を清国に返すよう要求しました。日本は当然反発しましたが、三国に抵抗するだけの国力はなく、やむなく返還に同意しました。

その後ロシアは、遼東半島の返還を要求したにもかかわらず、遼東半島先端にある大連、旅順を清国から強引に借り受け、太平洋艦隊(旅順艦隊)の拠点となる軍港を建設しました。このことは、当時の日本国民に強い反ロシア感情を抱かせ、「臥薪嘗胆」を合言葉に、国力の充実と軍備の増強に突き進ませました。

※臥薪嘗胆「復讐を心に誓って辛苦すること。目的を遂げるため苦心し、努力を重ねること。」

岡本水源地(写真1)

佐世保は、日清戦争の間、海軍基地として重要な役割を果たしましたが、一方では、深刻な水不足が問題になりました。海軍は既存の屋敷谷、郭公藪の湧水に加え、千綿川や伊佐ノ浦川から取水して

村から市へ

明治31(1898)年、佐世保村の人口が三万五千人を超え、急速に市街地が発展すると、町制を通り越し、市制施行を望む声が大きくなってきました。市制施行には、市民の意見も賛否両論ありましたが、検討の末、横尾、山中、熊ヶ倉の三免と山ノ田地区を分村し「佐世村」とすることで、35年4月、市制が施行されました。

これにより市は、郡役所の指導を受けることなく、市の抱える問題を県と直接協議し、迅速に解決できるようになりました。市制施行以降も、佐世保では軍港



戦争を乗り切りましたが、水源不足を痛感し、水道の拡張工事を計画しました。

この工事は31年から34年まで行われ、「岡本水源地(貯水池)」と、本市初の緩速ろ過(原水を砂利層に緩慢な速度で通過させる浄水方式)施設である「矢岳浄水場」が主要施設として建設されました。

岡本水源地はかんがい用ため池を改造し33年に完成したもので、土の堤防に切石を張った2基の貯水池を主な設備としました。

煉瓦倉庫の拡張

鎮守府の第一期工事の際に煉瓦造倉庫が建てられた平瀬立神地区には、20年代後半から30年代にかけて多数の煉瓦造倉庫が建設されました。また、前畑地区には第一期工事の際に火薬庫(写真2)が置かれており、こちらも大規模な拡張が行われました。

これらは地区によって用途が決められており、前畑地区には火薬類、平瀬地区には衣類や糧食類、立神地区には大砲などの兵器類(写真3)が保管されました。このように多くの煉瓦倉庫が建設されたのは、ロシアとの戦争において、佐世保が最前線の基地になると考えられていたことを裏付けています。

日露開戦

三国干渉以降、ロシアによる朝鮮半島、旧満州(中国東北部)への進出は一層露骨になりました。特に33年の義和団事件の際には、旧満州全域を占領し、植民地としての既成事実化を図りました。日本はこれに抗議しましたが、ロシアはかえって兵力を増強。日本は外交による解決を模索しましたが、ロシアは強大な軍事力を背景にこれを半ば黙殺し、圧力を強めるばかりでした。

危機感を募らせたのは日本だけでなく、中国に権益を持っていたイギリスも同様でした。35年、イギリスは、日本との同盟(日英同盟)に踏み切りました。日本は、同盟後も外交による解決を図りましたが、ロシアは一向に応じませんでした。そればかりかシベリア鉄道の建設を推し進めました。これが完成すると、ヨーロッパにいるロシア軍の極東への派遣が容易になってしまいます。国内世論は開戦へと傾きました。

37年2月3日、ロシア艦隊が旅順を出航したとの情報が海軍省に入り、4日の御前会議(国家の重大事に関し、天皇の出席の下に重臣・大臣などが行う最高会議)で開戦が決定されました。

陸軍「佐世保要塞」

海軍が佐世保において施設を充実させていく一方で、陸軍も軍事施設の増強を図りました。当時、軍港の防衛は、この国も陸軍の管轄となっていました。そのため佐世保にも軍港を守るための「佐世保要塞」が設置され、30年から34年にかけて鎮守府を取り巻くように要塞砲台が建設されました。このうち一部は着工せずに終わるものもありましたが、それでも7カ所の砲台が完成し、大小合せて70門以上の大砲が装備され、日露戦争に備えられました(写真4)。

鉄道開通と佐世保線の誕生

佐世保の軍港設置が決まると、今度は佐世保―博多、熊本の鉄道が必要になり、県は九州鉄道会社に申し入れ、鉄道建設計画に入れられることになりました。

佐賀県武雄から早岐までの線路工事が完成し、早岐駅が完成したのが30年7月。その後すぐに早岐―佐世保、早岐―大村間の工事が始まり、31年1月には両線同時に開通しました。これらの工事期間中、早岐には多くの人が集まり、建設資材も大量に運び込まれ、大変にぎわいました。また30年には、佐世保駅用地を造成するため、海面埋め立て工事が始まりました。

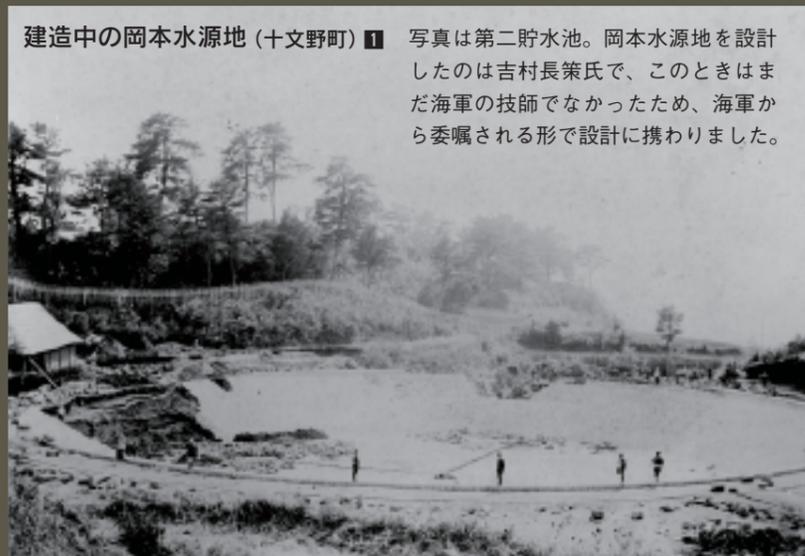
2月6日、外務大臣小村寿太郎はロシアのローゼン公使を外務省に呼び、国交断絶を通達、10日には両国ほぼ同時に宣戦布告がなされました。

連合艦隊の出航

36年12月、海軍は常備艦隊を解体して連合艦隊を編成しました。司令長官は東郷平八郎中将、作戦担当参謀はNHKD(ラム「坂の上の雲」で主人公となった秋山真之が務めることになりました。連合艦隊は佐世保に集結し、37年1月には臨戦体制に入り、石炭・糧食などの搭載作業が開始されました。

2月5日、連合艦隊に作戦開始が伝達され、翌6日、連合艦隊主力は、市民の万歳の歓声と鎮守府軍楽隊の演奏の中、佐世保を出航。8日には、旅順港に配備されていた旅順艦隊を奇襲攻撃し、日露戦争が始まりました。

また6日には、陸軍先遣部隊第12師団木越旅団(木越安綱少将指揮、写真5)の約二千二百人を乗せた運送船三隻と、装甲巡洋艦「浅間」をはじめとする巡洋艦5隻、水雷艇8隻からなる護衛艦隊が佐世保を出港。8日に朝鮮半島の仁川に上陸し、翌9日には仁川に派遣されていたロシアの巡洋艦「ワリヤーク」と砲艦「コレーツ」を撃破しました。(仁川沖海戦)



建造中の岡本水源地(十文野町) 1

写真は第二貯水池。岡本水源地を設計したのは吉村長策氏で、このときはまだ海軍の技師でなかったため、海軍から委嘱される形で設計に携わりました。



前畑火薬庫(前畑町) 2

初めて設置されたのは明治21年で、実際に建物に完成したのはその翌年。32~35年にかけて第一次拡張が行われ、そのとき建てられた火薬庫が写真のものです。



旧鎮守府武庫預兵器庫(立神町) 3

現SSK佐世保造船所の倉庫。建築当時の報告書類や図面等が数年前に発見されました。報告書の差出人は佐世保鎮守府司令長官東郷平八郎、受取人は海軍大臣山本権兵衛でした。



丸出山堡壘観測所跡(俵ヶ浦町) 4

丸出山堡壘は明治34年に完成し、大砲8門と観測所などを備えた主力砲台でした。



勝磯の碑(勝海町) 5

木越旅団が早岐の勝磯から乗船したことを記念して建立された石碑。当時のものは、太平洋戦争の敗戦により撤去されたため、戦後に再建されました。

近代化という坂

旅順攻囲戦

日本が日露戦争を有利に進めるには、陸軍部隊などを大陸へ船で輸送することが必要であり、それには旅順港を基地とする旅順艦隊を倒し、朝鮮半島周辺海域の制海権を得ることが絶対条件でした。

一方、ロシア海軍は旅順艦隊を温存し、本国から回航されてくる第二太平洋艦隊（バルチック艦隊）を待つてから日本海軍に決戦を挑むという方針でした。旅順艦隊とバルチック艦隊が合流した場合、戦力差は2倍以上になり、勝ち目が無くなるため、日本海軍はバルチック艦隊が極東へ到着する前に旅順艦隊を撃滅する必要がありました。

明治37（1904）年2月、開戦以来、

度重なる挑発にも乗らず、港内に引きこもったままの旅順艦隊に対し、日本海軍は「旅順港閉塞作戦」を決定しました。

この作戦は、港の幅が狭い旅順港の入り口に、自国の老朽船を運び、自沈させて、旅順艦隊を閉じ込めてしまつたというもの。5月までに3回実行しましたが、その都度、旅順要塞からの激しい砲撃を受け、結果的に失敗に終わりました。

8月、日本陸軍は海軍の要請により、急ぎよ第三軍（乃木希典大将指揮）を編成し、陸上から旅順要塞の攻略に当たりました。要塞築造について世界一の技術と経験を誇るロシア軍に、陸軍はかつてないほどの苦戦を強いられ、戦死者約一万五千人、負傷者約五万七千人という大き

な犠牲を払いましたが、12月、ついに攻略に成功。港内を一望できる二〇三高地に観測点を設け、山越しに港内に潜む旅順艦隊を砲撃し、全滅させることに成功しました。

日本海海戦「敵艦隊見ユ」

37年12月、日本艦隊の各艦は、旅順から順次佐世保などに帰還し、修理や整備を急ぎました。

一方、バルチック艦隊（ロジェストウェンスキー中将指揮）が、バルト海沿岸のリアウ港から旅順（旅順陥落後はウラジオストク）に向けて出発したのは、その2カ月前の10月でした。

38年2月、日本海軍は朝鮮半島の鎮海湾に連合艦隊を集結し、バルチック艦隊との対戦に備え、猛訓練に明け暮れました。バルチック艦隊がウラジオストクにたどり着く前に全滅させたい日本海軍としては、どこで待ち受けるかが大きな問題でした。最短コースとなる対馬海峡か、太平洋を経由しての津軽海峡か、悩みに悩みましたが、東郷平八郎司令長官は、最終的に対馬海峡通過説を信じ、「ここ（鎮海）で待とう」という決断を下しました。5月27日2時45分、五島列島沖を哨戒中だった仮装巡洋艦「信濃丸」が間の中

この勝利は世界を驚愕させ、イギリスの有名紙「タイムズ紙」が戦果確認のため発行を遅らせるといふ事態も発生しました。この勝利により「アドミラル・トール（東郷提督）」の名は世界中に轟き、世界三大提督の一人に数えられました。

日露戦争の終結

明治38（1905）年5月28日午後2時過ぎ、日本海軍の駆逐艦「漣」と「陽炎」が、ロシアの駆逐艦「ペドローウィ」と「グロースヌイ」を発見し、追跡を開始しました。2隻のロシア駆逐艦はそれぞれ別方向に逃走を図ったため「漣」が「ペドローウィ」を、「陽炎」が「グロースヌイ」を追いしましたが、「グロースヌイ」は砲撃しながら逃げ続け、何とかウラジオストクに入港することができました。

一方、「ペドローウィ」は一切反撃せず、そのうち自ら停止。マストにはテールクロスを使った白旗と、重傷者がいることを示す信号旗が掲げられていました。驚いたことに、その重傷者とは、バルチック艦隊司令長官ロジェストウェンスキー中将のことでした。「漣」はそのまま「ペドローウィ」を曳航して佐世保に入港し、ロジェストウェンスキー中将は、佐世保海軍病院に入院することになりました。また降伏したネボガトフ少将の旗艦「インペラトル・ニコライ一世」以下3隻も佐世保港に入港し、日露戦争の最大の山場ともいべき日本海海戦は幕を下

に浮かび上がった灯火を発見。それがバルチック艦隊のものであることを確かめ、4時45分、「敵艦隊ラシキ煤煙見ユ」、その5分後には「敵、第二艦隊見ユ、地点二〇三」と発信しました。

予想どおりバルチック艦隊が対馬海峡に向かっていることを確認した連合艦隊は鎮海湾を出港。大本営（明治以降、戦時・事変の際に、天皇に直属して陸海軍を統帥した最高機関）あてに「敵艦隊見ユトノ警報ニ接シ連合艦隊八直ニ出動之ヲ撃（沈）滅セントス本日天気晴朗ナレドモ波高シ」と打電し、運命の日本海海戦（対馬海戦）の幕が切つて落とされました。日本海海戦において、東郷司令長官率いる連合艦隊は、横方向の大砲を効果的に使用するため、敵前で「丁」の字を描くように大きく進路変更する「丁字戦法（トーヨー・ターン）」をはじめ、各砲台が艦橋からの指示で一斉に発砲する「斉射戦術」、爆発力が極めて高い「下瀬火薬」の使用のほか、徹底的に鍛え上げられた射撃技術や艦隊編成の巧妙な運用などによりバルチック艦隊を圧倒しました。結果、ウラジオストクにたどり着くことができたバルチック艦隊の艦船は、全38隻中わずか3隻に過ぎず、まさに海戦史上に残る完全勝利となりました。

日本海海戦の結果、日本の制海権は確実なものになりました。さらに日本の勝利があまりにも完全だったため、ロシアも講和に応じざるを得なくなり、この4カ月後にはアメリカの仲介でポーツマス条約が締結され、日露戦争は終結しました。

日露戦争後の日本と佐世保

「明治」という時代、日本はわき目もふらず「近代化」という坂を登り続けました。そして日露戦争においてロシアというヨーロッパの大国を退け、「列強」の仲間入りを果たしました。

その後の日本は、かつてのロシアのように中国、朝鮮に対する進出を進め、その拠点となったのが佐世保でした。そのため佐世保は以降も、海軍工廠（艦船等を製造・修理する工場）などを中心に、より一層施設の充実が図られました。

この日本の大陸進出は、盟友イギリスや、ロシアとの講和を仲介したアメリカに警戒感を抱かせ、やがては対立するようになり、太平洋戦争へとつながっていくことになりました。

【参考文献等】

司馬遼太郎「坂の上の雲」（昭和44年・文藝春秋）、吉村昭「海の史劇」（昭和56年・新潮社）、筒井隆義「新装版させば歴史散歩」（平成17年・芸文堂）、佐世保市教育委員会「ふるさと歴史めぐり」（平成17年・佐世保市教育委員会）、「佐世保市史（軍港史編上巻）」（平成14年・佐世保市史編さん委員会）など

◎社会教育課 ☎24・1111

当時の佐世保の様子が分かる書籍、テレビドラマなど

「坂の上の雲」司馬遼太郎著

日露戦争を勝利に導いた秋山好古・真之兄弟。俳句改革に命をかけた正岡子規。伊予松山出身の三人を中心に、明治という時代の明暗と、近代国家誕生にかけた人々の姿を描く不滅の国民文学。文庫判全八巻 定価 各670円 文藝春秋

NHKスペシャルドラマ「坂の上の雲」

第1部（平成21年11～12月放送）
第1回 少年の国、第2回 青雲、第3回 国家鳴動、第4回 日清開戦、第5回 留学生
第2部（平成22年12月放送）
第6回 日英同盟、第7回 子規、逝く、第8回 日露開戦、第9回 広瀬、死す
第3部（平成23年12月放送予定）
第10回 旅順総攻撃、第11回 二〇三高地、第12回 敵艦見ユ、第13回 日本海海戦

海上自衛隊佐世保史料館（セイルタワー）

企画展「秋山真之の生きた時代」24年3月末まで
開館時間 9時30分～17時（最終入場16時30分）
休館日 毎月第3木曜と年末年始（12月28日～1月4日）

所在地 上町8-1

☎海上自衛隊佐世保史料館 ☎22-3040

東公園（東山海軍墓地）

所在地 東山町182-1

☎社佐世保東山海軍墓地保存会 ☎88-8397



絵画「両提督の握手」 海上自衛隊第一術科学校教育参考館所蔵

明治38年6月4日、東郷平八郎司令長官は、日本海海戦で重傷を負って捕虜となり、佐世保海軍病院に入院しているバルチック艦隊司令長官ロジェストウェンスキー中将を、秋山真之と通訳を連れて見舞いに行きました。このとき東郷は言葉を尽くして長大な航海と奮戦を讃え、早く傷を癒して本国に帰られるよう尽力することを約束し、ロジェストウェンスキーは涙を浮かべて謝意を表したといひます。この話を聞いたイギリス人新聞記者のキッチン・グライトは感激してこの様子を描き、東郷平八郎に贈りました。

当時は、戦場を自己表現の場として、武士道、騎士道の精神をもって相対するべきと考える軍人も多く、日露戦争はそうした精神が発揮された最後の戦争だといわれています。



「閉塞作戦」杉野孫七の墓

第2次閉塞作戦の際に閉塞船「福井丸」を指揮した広瀬武夫少佐は、行方不明になった部下の杉野孫七上等兵曹の名を呼びながら三度も船内を探したが遂に見つからず、やむなく脱出中に敵弾の直撃を受けて戦死してしまいました。後に広瀬は軍神として崇められるようになり、このときの様子は文部省唱歌にも歌われました。なお行方不明になった杉野孫七上等兵曹はそのまま戦死したとされ、その墓は東公園にあります。